

企画展

東京の大地を

2013年10月26日[土]～11月10日[日]

会期中無休／観覧無料

開館時間：11:00～17:00

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館

関連企画

講演会

「東京の大地を探る ―地震と平野の成り立ち―」

日時：2013年11月4日(月・休) 10:00～16:00

参加無料、申込不要 ※会場定員100名

探る

アクセス：京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分

お問合せ：首都大学東京91年館 学芸員養成課程展示室

TEL 042-677-1111 内線2041

<http://www.comp.tmu.ac.jp/gakugei/index.html>

主催：首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ

歴史 300万の 関東平野

東京の大地を

企画展

関東平野
300万
年の歴史

探る

関東平野は、川や海、地殻変動、そして火山噴火などさまざまな作用により、300万年前から今日までの長い時間を経て、現在の姿にたち作られました。多摩地域北東部から都心部にかけて広がる武蔵野台地は、かつての多摩川が形成した扇状地や古東京湾の海底でした。一方、多摩地域南部の多摩丘陵はさらに古い時代に形成された相模川の扇状地などに起源をもちます。

また、これらの地形を覆う関東ローム層には、富士山や箱根火山の火山灰・軽石が含まれ、火山の影響を受けてきたことを示します。そして、武蔵野台地にのびる立川断層は、過去何十万年の間に時々活動し、マグニチュード7前後の大規模な直下型地震を発生させ、地表面を変形させてきました。

首都大学東京では、東京の地形と地質について、火山灰や立川断層に着目し、研究を重ねてきました。本展示では、これらの最新の研究成果を、豊富な地図・写真・地質試料などをもとに紹介します。

なお、本展示の制作には、「博物館実習Ⅰ」の一環として、学芸員養成課程の学生が参加しています。

展示内容

- ・東京・多摩の地学スポット紹介
- ・東京で採取された地質試料
- ・東京の地形・地質に関する最先端の研究成果

関連企画

■ 講演会

「東京の大地を探る ー地震と平野の成り立ちー」

武蔵野台地と東京低地の成り立ち、東京周辺の地震・活断層をテーマに、最新の研究成果を親しみやすく解説します。

日時:11月4日(月・休) 10:00~16:00

会場:首都大学東京 91年館 多目的ホール

参加無料、申し込み不要 ※会場定員100名

講演者(講演順)

鈴木 毅彦(首都大学東京都市環境学部 教授)

村岸 純(東京大学地震研究所 特任研究員)

久保 純子(早稲田大学教育学部 教授)

吉岡 敏和(産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 活断層評価研究チーム長)

■ シンポジウム(研究者向け)

日本第四紀学会テフラ火山研究委員会・首都大学東京 共同シンポジウム
「関東地方の地形・地質・テフラ研究の現状と今後の方向性」

日時:11月9日(土) 13:00~18:00

会場:首都大学東京 91年館 多目的ホール

詳細はお問合せください

【お問合せ】

首都大学東京91年館(学芸員養成課程展示室)

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1丁目1番地 首都大学東京 南大沢キャンパス

TEL 042-677-1111(内線2041) <http://www.comp.tmu.ac.jp/gakugei/index.html>



1



2

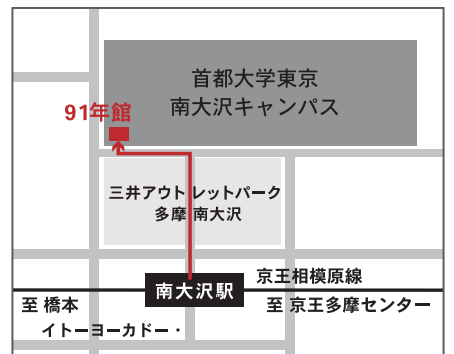


3

1. 多摩丘陵、長沼公園に露出する約200万年前の砂層
2. 多摩丘陵、稲城に産出する約140万年前の火山灰
3. 火山灰の化学分析に用いるエクス線分析装置

表面

空からみた多摩川河口と関東平野、背景は丹沢と富士



首都大学東京 91年館

アクセス:京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分

■南大沢駅改札口を出て右手奥に南大沢キャンパスが見えます。正門の手前で左折、130m程進むと91年館です。

大学構内には入らずにお越しいただけます。

■一般車両の駐車場はございませんので、公共交通機関にてお越しください。